

# ■ 指定管理者制度導入施設 最終評価シート ■

## 1 基本情報

公の施設名	相模原市立津久井障害者地域活動支援センター
指定管理者名	特定非営利活動法人竹の子作業所
指定期間	平成31年4月1日から令和6年3月31日(5年間)
施設設置条例	相模原市立津久井障害者地域活動支援センター条例
施設の設置目的	障害者が地域において自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、創作的活動又は生産活動の機会を提供し、社会との交流の促進を図るとともに、日常生活に必要な便宜の提供を行い、もって障害者の福祉の増進に寄与する。(条例第2条)※地域生活支援事業の地域活動支援センターⅢ型を実施
施設概要	開館時間午前9時30分から午後3時30分まで 休館日 土曜日、日曜日、祝祭日及び12月29日から翌年の1月3日まで 敷地面積:416.89㎡ 延床面積:229.67㎡ 主な施設作業室、事務室、食堂兼集会室、更衣室、トイレ
施設所管課	健康福祉局 地域包括ケア推進部 高齢・障害者福祉課

## 2 管理実績

項目(単位)	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
利用者数合計(人)	3,723	2,374	2,983	3,237	3,074
収入総額(円)	18,638,732	18,760,417	17,372,370	17,708,474	17,246,348
支出総額(円)	18,638,732	18,760,417	17,372,370	17,708,474	17,246,348

## 3 成果指標の達成度

評価(5評価)	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	評価点 (20点満点)	評価点
	<b>B</b>	<b>D</b>	<b>C</b>	<b>C</b>	<b>C</b>		

### 指標1

指標名(単位)	開所日1日あたりの平均利用者数 単位:人
指標式と指標の説明	施設を利用し、日中活動や地域との交流に参加することにより、障害者の地域における自立した日常生活や社会生活の促進が図られるため、一日当たりの平均利用者数(年間延べ利用者÷開所日数)を成果指標とする

項目(単位)	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標値(人)	15.50	15.50	15.50	15.50	15.50
実績値(人)	15.05	9.93	12.43	13.21	12.65
達成度(%)	97.1%	64.1%	80.2%	85.2%	81.6%

#### 4 事業の実施状況

評価（5評価）	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	評価点 (20点満点)	評価点 <b>15</b>
	<b>A</b>	<b>A</b>	<b>A</b>	<b>A</b>	<b>A</b>		

#### 市が指定する事業

主な事業名	内容等	効果等
相談支援	利用者等に係る状況の把握(毎日)、情報提供及び助言並びに相談指導(必要に応じて随時実施)	適時、訴えのある利用者とは話す機会を持ち意見の吸い上げに努めた。言語化が難しい方や、口で話すことに抵抗があるなどの意見は書いて意見箱へ入れるようにした。訴えることの難しい利用者は、保護者が変わって連絡帳へ書いて知らせてくれる為、早期に対応できた。利用者は(家族も)不安なく安心してセンターへ通所できている。
連絡調整	利用者のサービスに関して指定障害福祉サービス事業者と情報共有し、必要に応じて市高齢・障害者相談課や医療機関との連絡調整を行う。	相談支援事業所と情報交換を行い、必要に応じて市高齢・障害者相談課や医療機関等との連絡調整を行うことで関係者全体課題の解決に当たった。
地域における連携	地域の障害福祉サービス事業所、行政機関、社会福祉協議会、商工会、津久井地域包括支援センター等と連携をとる。	利用者が地域でより良く生活していくためのネットワークを作った。地域包括支援センター主催の認知症サポーターの講座を利用者と職員共に受講し、認知症への理解を深めお互いに助け合う心を育んだ。
センターの機能強化義務	サービス管理責任者研修修了者による個別支援計画作成業務等	松が丘園で実施しているサービス管理責任者研修相当の研修を受けた者が個別支援計画を作成し、計画に沿って職員全体で一貫した支援に当たった。利用者それぞれが抱える課題に日々目標を持ち支援でき、出来ないことが出来るようになるなど成長があった。
生産活動を提供する業務	就労支援を目的とした企業の請負作業及び自主製品制作販売の活動(プラスチック製品の分解やシール貼りなどの作業を提供し工賃を支払っている。)	地元企業からの請負作業や、自主製品制作販売等の生産活動を通して社会に貢献している。
地域交流に係る業務	地域での各種行事に参加し、障害者及び障害児の保護者又は介護者との地域交流を図る。	地域行事(津久井湖湖上祭、相模原市体操祭、やまびこ祭り)への参加や子どもの夏休みの時期に合わせた「駄菓子屋さん」の開催、ボランティアの受け入れ等で地域の方々に温かく受け入れてもらえた。「つくい手作りマルシェ」では、地域の行事となるよう「つくい」を名前に入れ、沢山の地域住民が施設へ訪れる機会となり、利用者が楽しく販売出来たことが自信に繋がった。地域行事を通して、地域の方に障害者やセンターの役割の理解を深めた。ボランティアが適時出入りし、人との温かい関わりが生まれたことは利用者にとって喜びとなっている。
地域活動支援	施設解放(竹の子祭、駄菓子屋さん、つくい手作りマルシェ)、ボランティア(習字講師など)、実習生(津久井支援学校等)の受け入れ等を行う。	利用者の生き生きとした姿や、センター内の様子を地域住民に知ってもらう事が出来た。イベントを利用者と地域住民が共に楽しんで頂き、地域共生を深めた。

センターの在り方の検討	今後のセンターの在り方について、センターの抱える課題を鑑みながら、市と協議を行う。	利用者・保護者の声に向き合い、加齢と共に変化するサービス内容の変化に対応するべく障害福祉サービスへの移行も視野に法人理事会を重ね、相模原市と協議した。 利用者の今後にふさわしい障害福祉サービスが何かを模索し、センターの現状と向き合う事が出来た。
利用の促進に関する業務	施設及び事業の広報、PR、利用者サービスの向上等に関する業務（施設玄関に通所者募集チラシを掲示、施設パンフレットを配布等、新規利用者獲得の為のPR活動）	地域行事に参加することで利用者の生き生きとした様子を地域住民に知ってもらい、施設PRに努めた。現通所者については日中活動の充実を提供し満足度を保つことで通所を継続出来た。 平成27年から新規利用者がいない状況が続いている。

#### 企画提案事業

主な事業名	内容等	効果等
(なし)		

#### 自主事業

主な事業名	内容等	効果等
季節行事	お花見(春)あじさい見学(夏)もみじ狩り(秋)クリスマス会・お茶会(冬)	利用者が季節の移り変わりを感じ、日々の生活に潤いを持って過ごすことが出来た。
調理実習	利用者が当番となり調理支援を行う。簡単な調理を行えるように自立支援を図る。	当番の利用者の自立支援となり自信に繋がった。利用者が自分が当番になるのを楽しみにしている。出来上がった料理を仲間と頂く楽しい時間を共有でき、満足度は高い。
たけのこカフェ	簡単な調理を利用者が行い役割を持つ。毎回地域ボランティアの受け入れをし、コミュニケーションの場を作った。	喫茶店のように利用者がホッと出来るような空間を作り、たくさんのコミュニケーションが生まれ、ボランティアとの親睦を深めることが出来た。貼り絵や絵画・読書・映画鑑賞などのレクリエーションも楽しめた。
日帰り研修旅行	社会人として研修旅行を実施し、楽しみながら社会見学を行うことで思い出作りを支援する。	令和2、3年度はコロナウイルスの感染拡大により、実施できなかった。遊びだけでなく、社会人としての嗜みやマナーを学ぶことが出来た。ボランティアを受け入れ、1人1人見守り強化しながら充実した時間を過ごせた。
健康支援	散歩・ボッチャ・ペットボトルボーリング・リレー等の運動を習慣化する。	健康ポイントカードを作成しポイントが貯まるとメダルが貰えるなどの工夫をし利用者のモチベーションを保ちながら運動を続けることが出来た。 加齢と運動不足による体力低下が課題となっているが、楽しみながら運動することで習慣化できた。

## 5 利用者の満足度

評価（5評価）	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	評価点 (20点満点)	評価点
	A	A	A	A	A		

### 利用者満足度調査

調査手法	利用者15名に対して令和6年3月にアンケートを実施
目標値の基準	「職員の対応はどうか」との問いに対する5段階のうち「とてもよい」「よい」「ふつう」と回答した方の割合

項目（単位）	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標値（％）	92.3	92.9	93.5	94.1	94.7
実績値（％）	92.3	93.8	93.8	100.0	100.0
達成度（％）	100.0%	101.0%	100.3%	106.3%	105.6%

### 利用者意見の把握に資するその他の取組

主な取組事項	取組内容
意見箱	言語化が難しい方や、口で話すことに抵抗があるなどの意見は書いて意見箱へ入れるようにした。記名・無記名は本人に任せた。
連絡帳	訴えることの難しい利用者は、保護者が連絡帳へ書いて知らせてくれる為、早期に対応できた。
個別面談	適時、訴えのある利用者とは話す機会を持ち意見の吸い上げに努めた。

### 利用者意見に対する対応

主な意見	対応内容
冬のボーナスがなくてショックでした。今年の夏のボーナスがなくなると好きな物が買えなくなるんじゃないかと不安になる。	コロナウイルスの影響で内職作業が減ってしまったことや、収入はお仕事の対価であり、やった仕事の分しか支払えないことを説明し、夏のボーナスは支払えることを伝え安心していただいた。
祝日の日でもここへ来て働きたい。	ここは土日祝日は休みと決まっています、休みの日はしっかり身体を休める事や好きなことを楽しむようすすめた。
施設の皆さんと一緒に特定のアニメの映画を見に行きたい。	観たい映画はそれぞれ違うからその映画を観るかは分からないが、映画館へ行く行事については今後検討することを伝えた。

## 6 施設の経営状況

評価 (5評価)	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	評価点 (20点満点)	評価点
	<b>S</b>	<b>B</b>	<b>B</b>	<b>D</b>	<b>D</b>		

### 施設の収支概要

(千円)

項目	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
収入 (a)	16,974	17,313	16,370	17,078	16,856
指定管理料	16,005	15,952	15,331	15,980	16,122
利用料金収入	0	0	0	0	0
その他の収入	969	1,361	1,039	1,098	734
支出 (b)	16,430	17,749	16,823	17,357	17,660
人件費	12,082	12,958	12,937	13,255	13,671
本社管理経費	969	761	770	688	649
その他の支出	3,379	4,030	3,116	3,414	3,340
本体事業収支 [(a)-(b)] (c)	544	-436	-453	-279	-804
自主事業収入 (d)	自主事業に係る収支は本体事業に含まれる。				
自主事業支出 (e)					
自主事業収支 [(d)-(e)] (f)	0	0	0	0	0
全体収支 [(c)+(f)]	544	-436	-453	-279	-804
備考					

## 7 管理業務の履行状況

検査項目	確認結果				
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
管理業務	適正に実施	適正に実施	適正に実施	適正に実施	適正に実施
危機管理	適正に実施	適正に実施	適正に実施	適正に実施	適正に実施
人員配置・地元活用	適正に実施	適正に実施	適正に実施	適正に実施	適正に実施
現金管理	適正に実施	適正に実施	適正に実施	適正に実施	適正に実施
会計・経理	適正に実施	適正に実施	適正に実施	適正に実施	適正に実施
情報セキュリティ	改善済	改善済	改善済	適正に実施	適正に実施
情報公開・個人情報保護	改善済	改善済	改善済	適正に実施	適正に実施
市への報告事項・事前承認等	適正に実施	適正に実施	適正に実施	適正に実施	適正に実施
加点の有無	無	無	無	無	無
主な加点内容					

## 8 指定管理者の自己評価

令和元年末頃より新型コロナウイルス感染症が蔓延し、センター運営にも大きな影響があった。緊急事態宣言を受け、通所受け入れ人数を制限し、検温、消毒、換気等を徹底して実施した。外出やレクリエーションにも制限があった時期も、職員が利用者を支援する気持ちを諦めることなく、事業計画書に沿って事業を行った。令和5年新型コロナウイルス感染症が5類になったことを受け、地域共生を目指して、地域行事へ積極的に参加してきた。利用者の生き生きとした姿を地域住民に知って頂き、施設PRを続けた。ダウン症の利用者は加齢が早い傾向にあり、認知症が進んでおられる方も数名いらっしゃるが、出来る限り寄り添い利用者とその家族が安定した生活を継続できるように向き合った。高齢化した利用者の体力低下に伴い通所日数が減少したことや、障害が重度化し在宅介護に切り替わり、通所利用人数が減ってきているのが現状である。高齢化した利用者のサービス内容の見直しを行い、相談機関や他サービス事業所との連携を強化した。

## 9 所管課意見

- ・新型コロナウイルス感染症の影響で1人当たりの工賃が減少した際に、利用者の作業へのモチベーションを維持できたことは評価できる。
- ・地域交流行事に積極的に参加し地域への障害者理解促進に貢献しながら、季節行事や調理実習などで利用者が楽しみを持てる事業を行い利用者満足度が高いことが評価できる。令和2年度、令和3年度には新型コロナウイルス感染症の影響で、ほとんどの行事が中止になっても利用者満足度を高く維持できており、職員が手厚い支援を行っていることがわかる。
- ・平成27年から新規利用者がいない状況が続いている。仮に障害福祉サービスに移行しても新規の利用者がいないと事業の継続は困難であることから、令和6年度からの新たな指定管理者による指定管理期間においても、積極的な広報・PR活動を行うとともに新規の利用者に向けて魅力ある施設運営を検討することを求める。
- ・法人の経営状況の確認を通して、会計管理に懸念が認められた。本課としても、指定管理者の経営状況について今後も注意して確認していく。

## 10 選考委員会意見

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、ほとんどの行事等が中止となったが、時期をみて野外実習（藍染実習）を実施したり、給食サービスの代替として「簡単お昼」を行ったことは評価できる。
- ・利用者満足度が高く維持できていることは評価する。利用者及び保護者が高齢化していくなかで、地域で在宅生活を継続していくためにも利用者だけではなく世帯を含めた支援を期待する。
- ・長期間にわたり新規利用者がいない点については、大きな課題である。障害福祉サービス移行した場合にもサービスを継続できるよう、利用の促進に関する業務について改善の必要がある。
- ・法人の経営状況について、繰越金を全体収支の欠損に充当しており、また、令和4年度決算で内容不明の「過年度損益修正益」80万円が計上される等、会計管理面に重大な懸念が認められた。令和6年度から指定管理者は変更になったが、引き続き、法人の経営状況や会計管理の状況を注視していくべきである。
- ・地域との連携が図られソーシャルインクルージョンの視点を大切に支援を行っていることは評価できる。コロナの影響で中断していた取り組みも5類移行を受けて再開できている点も良かったと思われる。

### 総合評価（自動判定）

C

(53/100)

